



逡巡の我を見下す五月の鷹	千田 百里
夏蝶の翅のみ死なず開きけり	辻 美奈子
許される飛道具とは草矢まで	井原 美鳥
一弾をもて全山の花散らす	広渡 敬雄
衣ずれといふ幽けさに白牡丹	細川 洋子
春愁の重さ真珠のネックレス	栗原 公子
寝返れば廃船見ゆる暑さかな	荒井千佐代
春昼や首振つて解く束ね髪	能美昌二郎
東巴文字さながらに蝌蚪泳ぎ出す	大沢美智子
煮切りたるみりんの匂ひ花曇	大川ゆかり
軒反りの先の曲線朝つばめ	平松うさぎ
かがんぼの足組み立ててやれまいか	朝長美智子
らふそくを納戸に探す復活祭	埴 誠一郎
陽炎の高さを滑る貨物船	須賀ゆかり
逃げ水の中へ中へと鼓笛隊	小林 陽子
春眠の淵ずると手を離す	道端 齊
紙ふうせん突くたびすぐに落ちたがる	村上 葉子
蠅生る生命の初め嫌はれて	兵藤 恵
夏足袋の踵を軸に神楽舞	大橋 松枝
賑やかもしみじみもあり花筵	川高郷之助
始まりと終りはいづこ蝌蚪の紐	中村 重幸
青田風そらへ空へと柵田駆く	澤田 英紀
かはほりや常識といふナンセンス	金光 浩影
鉛筆の両端削る昭和の日	塩野谷慎吾
銀輪一行背に五月の風入れて	七田 文子
初燕港に今も方位石	栗坪 和子
レコードのノイズの静か春の夜半	坂井 博
更衣心の枷を解きけり	岩波 博庸
逃げ水や幾つありしか分岐点	工藤 良丕
総天然色の夢の今なり昭和の日	頓所 敏雄

沖 の 水 脈

